



日本共産党区議会議員
伊藤和彦です

自宅・足立区花畑6-7-23
足立区役所・電話3880-5111(内線4650~4654)
日本共産党議員団・直通・3880-5770~1

http://www5.familie.ne.jp/~k-itou/index.html



●車は、ピーク時で一日に700台前後殺到すると予測しています。駐車場は、エリア内に1550台、駅前前のA街区を借りて臨時駐車場(1月まで駐車場として使う)が150台、計1700台分を確保しています。一日に4回転して6800台は駐車できると、想定していますが、最初に1700台が駐車し、その後客さんが2時間を超えて滞在すれば、それだけで街に車があふれかえる

アリオ・ヨーカドー西新井店 11/9 開店にむけて

渋滞・環境対策を!

渋滞

車はどれくらい殺到する?

「大渋滞で身動きがとれなくなる。今でも渋滞がひどいのに、「もつ」商売は続けられない」11月6日PREOPENのアリオ・ヨーカドー西新井店のチラシが各家庭に入り、こんな不安の声が広がっています。(開店は9日) プレオープンの6日は、車は1800台、自転車9500台が殺到しました。日本共産党区議団は、くりかえし対策を求めてきました。その内容をお知らせします。

●米場者のピークは11月10・11日の十日と予想しています。
●車は、ピーク時で一日に700台前後殺到すると予測しています。駐車場は、エリア内に1550台、駅前前のA街区を借りて臨時駐車場(1月まで駐車場として使う)が150台、計1700台分を確保しています。一日に4回転して6800台は駐車できると、想定していますが、最初に1700台が駐車し、その後客さんが2時間を超えて滞在すれば、それだけで街に車があふれかえる

竹橋通りの交差点の信号機の秒数を長く変更し、尾竹橋に出やすくする ② 交通誘導員を大勢配置し、駐車・出庫まで誘導する ③尾竹橋通り・環七に車が溢れるのを緩和するために、駐車待ちの車は、駅周辺の新しい広い道路に列をつくって待機するように誘導する。④環七から尾竹橋に右折してアリオの買い物客の車が入らないよう、警察署の前に迂回を誘導する ⑤駐車待ちの列の最後尾などに30分、60分、2時間待ちのプラカード表示をする

大気汚染

1とのことですが、巨大施設に人が殺到するために、街の中に車が溢れかえることにはかわりありません。

近隣の生活道路に車が入り込まないように!

日本共産党がくり返し求めてきたことです。「交通誘導員が誘導して、生活道路に入り込まないようにする」と約束させました。また、「自転車

ことになりません。●対策として、①「環七等の渋滞を避け流れを良くするために、駅前通り・尾竹橋通り・環七に車を誘導する」②「区は「車が集中することによる大気汚染の測定を行います」6月にも測定済みで、OPEN後にも変化を調べます」と答えていました。●しかし、その内容を聞いておどろきました。①アリオの周りや、尾竹橋通り沿いでは全く測らないで、木々が茂る大きな民家の中で測定する。②渋滞のピーク時は「付録」だから測らない。落ち着いた12月に1週間の数値を測定する1というものです。「これでは、どう悪化したかわからないではないか。

「おかしい!」と迫ると、区環境課長は、何の根拠も示さずに「そんなに変わりはありません。大丈夫です」と答えるだけです。ここでも、事業者寄りの区の姿勢がうきばりになりました。【大気汚染測定運動連絡会の話】「区環境課長の話は、何の説得力ももたない。木が茂っていれば、NO2を吸収し、数値が下がるは、測定するものの常識だ。今は簡易測定器もある。ヨーカドーの「4角(すみ)」と、駐車場、周辺の密集した民家で、少なくとも10ヶ所測定をすべきだ。自分たちも区に働きかけていきたい」

改善求めます

大型店誘導優先で、区道までつぶし、いたれりつくせりの区の姿勢が問題
大切にすべきは「環境を悪化させないで」の住民の声ではないでしょうか

商店街対策で区は「大型店と区内商店を共存共栄させるために支援する」といっています。でも実際には、地元商店対策はほとんど行わず、一方、大型店(アリオ)のために、区の道路もつぶして誘導させる、規制も緩和してあげてヨーカドーを出店させました。大企業にいたれりつくせりのこの姿勢こそ問題です。商店対策と住民の声を届け、改善を求めてがんばります。

伊藤 和彦

プレオープンするのは何故? - 「一度に来場者が殺到するのをふせぎ、分散させるため(ピークカットという)」といっています。しかし、今回のチラシは「工事のご迷惑をかけた近隣のみなさまに特別にご招待」といいながら、西新井地域だけでなく、伊興・江北・梅田など広いエリアに配布しています。これでは「客の囲い込み」と言われてももしかたがありません。

住民税の減免 制度の拡大を!

区民をほげます あたたかい姿勢こそ必要です



増税負担増で暮らしが大変と話し合う区民

議員提出第9号議案「足立区特別区税条例の一部を改正する条例」

自民党	公明党	共産党	民主党	無党派
×	×	○	×	×

区民の収入は減っているのに区は増税している。本条例改正案は、収入がふえない

日本共産党足立区議団は、第三回定例議会に、住民税の減免制度の拡大を行うための条例改正案を提出しました。この提案に対し、区民委員会で、自民党、公明党、民主党の各委員が「否決」しました。

日本共産党区議団は最終本会議で、「可決」を求める討論をお知らせします。

討論(要旨)
議員提出第9号議案「足立区特別区税条例の一部を改正する条例」について、委員会の否決に反対し、原案の可決を求める立場から討論を行います。

くても各種控除の廃止などで増税となり苦しむ区民が増えている状況を目の当たりにし、何らかの救済する手立てはないものかとの想いから、住民税の減免制度の拡大を行うため日本共産党足立区議団が提出したものでした。

足立の税務概要によると、収入が少なくなることによる非課税者が倍に増え、区民の収入が減っているにもかかわらず、区の税収だけは増加しています。

これは、過酷な増税が区民にのしかかっていること、表われてはいないでしょうか。

きびしい規定は生活の現況に合っていない
地方税法323条では、災害とともに貧困により住民税を減免することができると、定めています。これにもとづいて、足立区税条例は第32条で、疾病・失業や生活困窮時については、その年に所得が皆無となったため生活が著しく困難となったもの、または、これに準ずると認められる区民を、減免対象としています。しかし、この規定では生活保護を受給した場合

の適用があります。それが、それ以外はいずれも適用されず、区民生活の現状に合っていないものはいえませんが、

委員会で、区民部長が、与議員の質問に対し「所得だけで減免すれば、『貯金が1000万円あって所得ゼロ』、『豪邸に住んでいて所得だけはない』など極端な資産や貯蓄要件の例を持ち出して、石原知事も実施を断念したなどと、答弁しました。

これは二つの点で全く筋違いの議論であり、話になりません。

第一に、今回の提案は、一律に減免する石原提案とは全く違い、申請により減免される区税条例36条の減免規定を若干改定することで、より区民生活に現実的に対応できるようにする提案です。

第二に、資産や貯蓄要件は、現に部長決定の解釈基準でも申請資格を確認するものとして、「預貯金の通帳及び有価証券の証書」「固定資産税の納税通知書」の提出を求めているではありませんか。

準を決定

区はさらに、減免処理要綱や減免の判定に使われる基準表で実際の運用を厳しく制限し、今年部長決定した解釈基準では、ついに「65才以上か重度の障害者」でなければ、減免されない制度にしてしまいました。

提案は区民の生活実態に即したものを

本条例案は、区税条例36条の1項を若干改め、課税段階での減免を区民の生活実態に即して行えるようにするものでした。

減免対象に、「所得が著しく減少」または「一定金額以下の少額所得者」を加え、区民の生活実態に合わせて減免できることです。

住民税は前年の所得にかかるため、収入が病気などで激減しても、前年の収入が高ければ、高い税を課せられますが、こういった問題が解決されます。

また、住民税が実態に即して軽減されれば、国民健康保険や介護保険料も軽減されます。これが、納税段階での、徴収猶予や執行停止などの措置との大きな違いです。

区民部長の答弁はすじちがい

本条例改正案の対象になるのは、「がんばって働いてきたり税や保険料を納めてきた」区民の方々です。様々な負担増が区民を襲う中で、収入が一定以下だったり、大幅に減ったときに、「今は、税金は課税しませんよ」と激励する温かい姿勢こそが必要ではないでしょうか。

議員のみなさまに置かれましては、こういった実現可能な当然の減免規定の整備によって、区民のくらしを応援する立場に立たれるよう、心から願ひまして討論を終わります。

区民のくらしを応援する立場に立たれるように求める